

国語科

教科名	国語科	科目名	国語総合(古文・漢文)
科目の目標	国語を適切に表現し、理解する能力を育成し、伝えあう力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重する態度を養う。		
履修学年	1年	類型	
単位数	3/5単位	履修形態	必修
教科書	改訂版新訂国語総合 古典編 第一学習社	副教材等	新要説文語文法五訂新版(日栄社)・漢文必携四訂版(桐原書店)・新訂総合国語便覧(第一学習社)

①学習の目標

- (1) 国語を適切に表現し、理解する能力を伸ばす。
- (2) 伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨く。
- (3) 言語文化に関する関心を高め、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を身につける。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 音読を繰り返し、古文や漢文のリズムを体得する。
- (2) 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。
- (3) 文法事項では、文語のきまり、訓読のきまりなどを十分に理解する。
- (4) 必要に応じて口語訳を行い、文章の内容を正確に把握する。
- (5) 古典常識の理解を深め、文章の構成を確かめたり表現の特色をとらえたりする。
- (6) 文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを表現に即して読み味わう。
- (7) 様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする。
- (8) 文章の背景に迫り、日本文化の特質や、日本文化と中国文化の関係について考える。
- (9) 自ら読み取った思想や感情などについて、感じ、考えたことを文章にまとめ、発表する。
- (10) 教科書を中心に、プリント等を活用し、まとめた文章読解ができるようにする。

③学習に当たっての留意点

- (1) 常に主体的に学習に取り組むことを心がけ、古文では、①音読、②本文書写、③口語訳を、漢文では、①音読、②本文書写、③書き下し文、④口語訳の予習を怠らないこと。
- (2) 様々な表現技巧、語句、語彙について辞書や便覧などで調べ、読解に役立てるとともに、文章成立の歴史的背景への理解を深めること。
- (3) 授業では、予習時の不明点の解明と共に、現代文と意味・用法の異なる古文・漢文の語彙・文法事項の習熟に力を入れること。
- (4) 文法事項の学習に当たっては補助教材を活用し、計画的・体系的な知識の習得に努めること。
- (5) 小テスト等にも意欲的に臨み、課題は期限を守って確実に提出すること。

④評価の観点

(1) 「関心・意欲・態度」【関】

自らの国語力の向上を図るため、予習・復習をしっかりと行い、授業に関しても、その内容を積極的に理解し、自らを高めようとする姿勢が見受けられることを基本とする。様々な課題に関しても、取り組みが充分であり、自主的に質問をしたりするなど、理解しようとする態度も評価する。さらに、教材や作者に関して主体的に調べたり、発展的に学習を進めたりすることができることが望ましい。

(2) 「話すこと・聞くこと」【話】

「話すこと」に関しては、目的や場に応じて、自分の意見を述べるができることを基本とする。さらに、様々な問題について自分の考えをまとめ、構成を考え、筋道立てて相手に分かりやすく話すことができることが望ましい。また、「聞くこと」に関しては、まとめた長さの説明を聞いて、内容を正確に理解できることを基本とする。さらに、その内容に共感したり、問題点を指摘したりすることができることが望ましい。

(3) 「書くこと」【書】

誤字・脱字や、主述や文脈の乱れがなく、相手や目的に応じて言葉や文体を使い分けて書くことができることを基本とする。さらに、論理的な構成を工夫したり、効果的な表現を交えて書くことができることが望ましい。

(4) 「読むこと」【読】

表現に留意して、様々な文章の内容を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を広げ、描かれた人物・情景・心情などを味わっていくことができることを基本とする。さらに、難解な文章でも文脈に即して的確に読み取り、自らの考えを深めていくことができることが望ましい。

(5) 「知識・理解」【知】

古今の様々な文章の読解を通して、語彙・文法・表現・文学史等を理解し、今後の文章読解・鑑賞・表現に役立てられる知識として蓄積することを目指す。

⑤評価の方法

「関心・意欲・態度」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「知識・理解」の5つの観点で、以下の学習の状況を総合的に評価する。なお、学年末の評定は「国語総合」の中の「現代文」「古典」の2つの領域を総合して評価する。

- (1) 学習活動に対する取組姿勢
- (2) 提出された課題の内容
- (3) 定期考査及び小テストの結果

⑥授業計画

具体的な内容の※印は進捗状況によっては扱わない場合がある。

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	古文 入門	「なぜ古典を学ぶか」 古文を読むために1 歴史的仮名遣い 古語と現代語	学習活動に意欲的に取り組むことができたか。 【関】
5	古文 物語	児のそら寝 「宇治拾遺物語」 古文を読むために2 文・文節・単語 品詞の種類 活用と活用形 係り結びの法則 古文の予習の仕方 動詞の活用 検非違使忠明 「今昔物語集」 形容詞の活用 形容動詞の活用	読解した内容を、分かりやすく表現できたか。 【話】 読解をもとに、読み取った内容を正しく表現できたか。 【書】 表現に留意し、内容を正しく理解することができたか。 【読】
6	漢文 入門	※絵仏師良秀 「宇治拾遺物語」 漢文訓読のきまり 訓読に親しむ 送り仮名 返り点 助字 再読文字 書き下し文 再読文字のまとめ	古語の特徴、用言の活用、訓読の基本について、正しく理解できたか。 【知】 古典分法、訓読のきまりについて、正しく理解できたか。 【知】 前期中間考査
7	漢文 故事成語	漁夫之利 「戦国策」 蛇足 「戦国策」 守株 「韓非子」 船に刻みて剣を求む 「呂氏春秋」 完璧 「十八史略」 否定 疑問 反語 使役	読解した内容を、分かりやすく表現できたか。 【話】 読解をもとに、読み取った内容を正しく表現できたか。 【書】 表現に留意し、内容を正しく理解することができたか。 【読】
8	古文 歌物語	芥川 「伊勢物語」 筒井筒 「伊勢物語」 ※「大和物語」との読み比べ 助動詞	古典分法、和歌の修辞について、正しく理解できたか。 【知】 前期期末考査
9	漢文 文章	雑説 韓愈 受身	学習活動に意欲的に取り組むことができたか。 【関】
10	古文 随筆	丹波に出雲といふ所あり 「徒然草」 花は盛りに 「徒然草」 助動詞	読解した内容を、分かりやすく表現できたか。 【話】
	漢文 史伝	先従隗始 「十八史略」 抑揚	読解をもとに、読み取った内容を正しく表現できたか。 【書】
11	古文 日記	門出 「土佐日記」 帰京 「土佐日記」 助動詞	表現を味わい、内容や心情を正しく理解することができたか。 【読】 古典分法、漢文の句法について、正しく理解できたか。 【知】 後期中間考査

12	古文 随筆 説話	九月二十日のころ 武正といふ舎人 敬語表現	「徒然草」 「十訓抄」	学習活動に意欲的に取り組むことができたか。 【関】
1	漢文 思想	孟子 限定		読解した内容を、分かりやすく表現できたか。 【話】
2	漢文 史伝	刎頸の交わり	「史記」	読解をもとに、読み取った内容を正しく表現 できたか。【書】 表現を味わい、内容や心情を正しく理解する ことができたか。【読】 古典分法、敬語、漢文の句法について正しく理 解できたか。【知】 後期期末考査
3	古典 総復習	1 年次の古文・漢文基本事項の復習・確認 読解問題・演習問題		